

## 28. 四天王寺庚申堂



- **所在地** 大阪市天王寺区堀越町2番15号
- **登録年月日** 平成26年3月20日
- **概要** 四天王寺の数百メートル南にある庚申堂の縁起は、今から1300余年前（飛鳥時代）、我が国に色々の疫病がはやり、四天王寺の民部（みんぶ）の郷僧都毫範（そうずごうはん）が、靈験を得て祈願をしたとき、庚申堂の本尊である青面金剛童子（しょうめんこんごうどうじ）が、16歳くらいの童子の姿で現れ、毫範に除災無病の力を与え、それによって病は去っていったという言い伝えがあり、時は大宝元年（701年）正月7日、庚申の日とされる。以来、毫範の感得した青面金剛童子をこの地で祀られたのを開基とする。我が国の庚申信仰の始まりであり、以来庚申本尊を祀ろうとするものは、皆当寺に来て、免許を得、尊天の分身を勧請（かんじょう）するのを例としている。本堂は元和4年（1618年）建立されたお堂であったが、昭和20年（1945年）の空襲で焼失し、現在の建物は、昭和45年（1970年）大阪万博に造られた休憩所・法輪閣を移築したものである。

## 29. 大正湯の煙突



- **所在地** 大阪市天王寺区松ヶ鼻町3番16号
- **登録年月日** 平成26年3月20日
- **概要** 夕陽ヶ丘高校の東側の道を北へ入った閑静な住宅街の中にある。狭い空間をうまく開放感と質感をもつ雰囲気仕立てた設計（昭和56年（1981年））となっている。

## 30. 伝藤原家隆墓



- **所在地** 大阪市天王寺区夕陽丘町5番
- **登録年月日** 平成26年3月20日
- **概要** 藤原家隆（1158年～1237年）は、藤原時代末期の五代の天皇に仕えた有名な歌人で、79歳の時に官を辞して浄春寺の地に隠棲（いんせい）した。その翌年の春の彼岸に高台から西の海に落ちる夕日を見て、その荘厳さに心を打たれ直ぐに落髪して仏性と号し、その4月9日に消えるように一生を終えた。伝藤原家隆墓は、家隆の墓といわれ、その傍らには、御影石にこの歌が夕日とともに刻まれた歌碑がある。夕陽丘の地名は、この歌の「波の入日」からきている。

## 31. 愛染堂 (愛染さん)



- 所在地 大阪市天王寺区夕陽丘町5番36号
- 登録年月日 平成26年3月20日
- 概要 推古天皇元年(593)、四天王寺の施薬院(せやくいん)として聖徳太子が建立し、その後、縁結びの神様として有名な愛染明王が本尊として祀られるようになったことから「愛染堂」と呼ばれるようになった。「愛染めの霊水」は飲むと愛が叶うと言われ、映画「愛染かつら」のモデルとなったことで知られる愛染かつらの霊木が境内にある。本堂(金堂)は大阪府の指定文化財、多宝塔は大阪市内最古の木造建築物で国の重要文化財の指定を受けている。

毎年6月30日~7月2日に行われる「愛染まつり」は、大阪三大夏祭りのひとつといわれ、大阪に夏の訪れを告げる風物詩として広く知られる。愛染明王のご開帳が行われ、夜店も立ち並ぶのでたくさんの参詣者で賑わう。

## 32. 大江神社



- 所在地 大阪市天王寺区夕陽丘町5番40号
- 登録年月日 平成26年3月20日
- 概要 天王寺七宮の1つで、聖徳太子自らまつりごとを行ったこともあり四天王寺の鎮守といわれている。四天王寺の乾(いぬい 西北)に位置しているところから、江戸時代には「乾社」と呼ばれていた。当時は毘沙門天(びしゃもんてん)を祀っていたので、「毘沙門堂」とも呼ばれていた。その守護獣(おつかい)は虎なので、「狛犬」ならぬ「狛虎」が座し、阪神タイガースファンの参拝が後を絶たない。また、大江神社に向かう段丘崖の階段は、「百歳(ももとせ)の階段」と呼ばれている。

「大江」の社号は慶応3年(1867年)に、この地は西側が傾斜地になっており、その昔大江の岸と称していたので、時の祀官(しかん)が改称した。当社は天王寺北村の産土神であり、祭社主神に豊受大神を祀り、稲荷神と同一神で五穀豊穡、食料保持の神である。

### 33. 清水寺



- **所在地** 大阪市天王寺区伶人町5番8号
- **登録年月日** 平成26年3月20日
- **概要** かつては有栖寺（ありすでら）とってかなり古くからあったといわれる。寛永17年(1640年)に延海大阿闍梨（えんかいだいあじやり）が観世音菩薩（かんぜおんぼさつ）のお告げをうけ、京都の清水寺から聖徳太子の作といわれる十一面千手観世音菩薩（せんじゅかんのんぼさつ）を遷して本尊として祀り、享保年間(1716年～1736年)に新清水寺に寺号を変えたとされている。墓地の西端には、もともとの眺望性を活かして京都の清水寺を模した「舞台」があり、市街地が展望でき、大阪南のシンボルである通天閣等も見える。

### 34. 吉祥寺（赤穂義士の寺）



- **所在地** 大阪市天王寺区六万本町1番20号
- **登録年月日** 平成26年3月20日
- **概要** 寛永7年（1630年）創建の曹洞宗の寺院であり、創建当時の住職縦鎌師が赤穂藩主浅野主匠頭長矩（あさのたくみのかみながのり）と親しい間柄で、この寺は大坂における浅野家の菩提寺であった。義士討ち入りの翌年2月、大石内蔵助をはじめとする46士は切腹したが、足軽の寺坂吉右衛門が46士の遺髪、遺爪、鎖かたばら等に銀10両を添えて義士の冥福を祈る碑を建ててくれるよう吉祥寺に依頼したもので、江戸や赤穂よりも先がけ、元文4年（1739年）建立されたという。しかし、昭和20年（1945年）3月の大阪大空襲で義士の遺品など全て灰燼（かいじん）に帰し、残るのは墓石のみであった。この寺の山門は元は中之島常安橋北詰にあった赤穂藩蔵屋敷門を移築したものであったが、戦災で焼失したため再建された。

## 35. 「真田丸」ゆかりの地



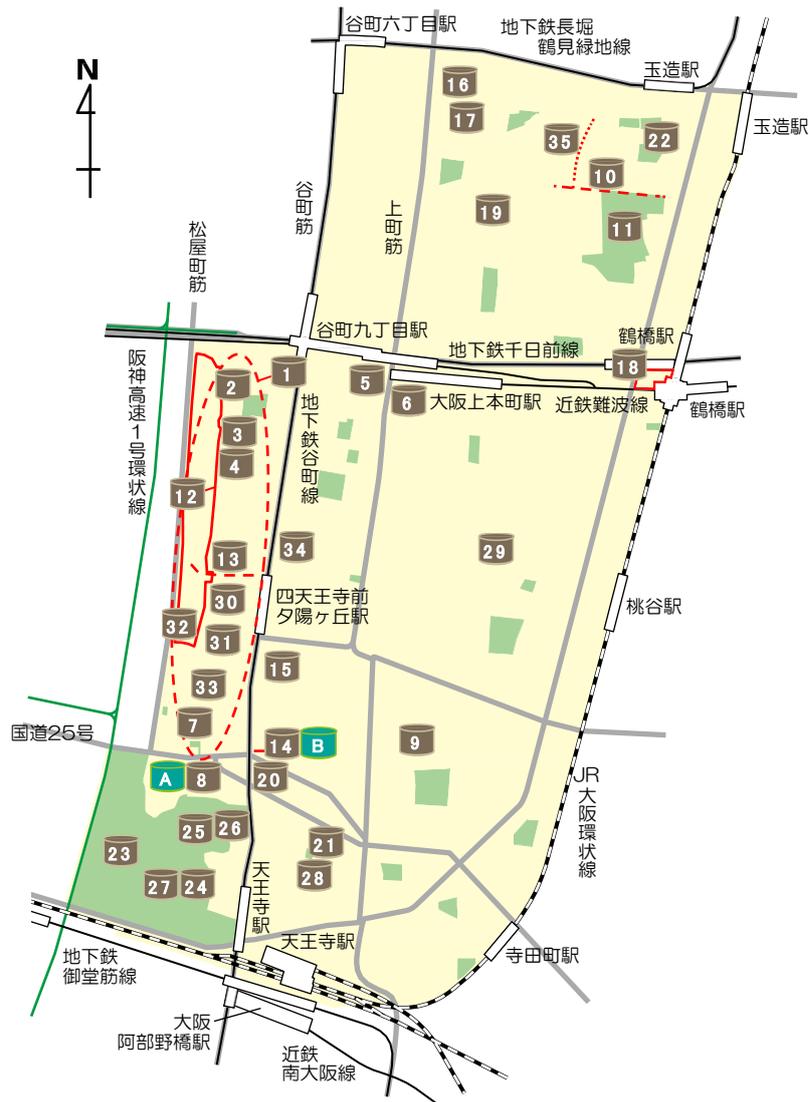
■ **所在地** 大阪市天王寺区空堀町 9、10 番～餌差町 2、3、4、5 番

■ **登録年月日** 令和2年5月15日

■ **概要** 何重もの堀に守られた鉄壁の要塞大坂城での籠城戦となった大坂冬の陣で、真田幸村が大坂城の城外砦「真田丸」を築いた。真田丸は百間四方（約 180m）、もしくは二町（一町は 100m）で、ほぼ現在の大阪明星学園の周囲の範囲に位置する。心眼寺坂の沿道には多くの寺院があり、その中に、創建 1593 年（文禄 2 年）の浄土宗の寺で、真田信繁（幸村）・大助父子の冥福を祈るため再建立された心眼寺がある。心眼寺の寺伝によると、真田丸の壊された跡（東側）に寺を再建され、境内には真田幸村の墓碑も建立されている。

また、沿道には真田丸顕彰碑が建てられ、幸村の功績を今に伝えている。

# 天王寺区の都市景観資源（分布図）



平成 15 年 4 月 11 日登録の都市景観資源（旧・指定景観形成物）

**A** 一心寺      **B** 総本山四天王寺

平成 25 年度・令和 2 年度登録の都市景観資源

- 1 天王寺七坂（真言坂、源聖寺坂、口縄坂、愛染坂、清水坂、天神坂、逢坂）
- 2 生國魂神社
- 3 齡延寺
- 4 銀山寺
- 5 うえほんまちハイハイタウン
- 6 上本町 YUFURA（上本町新歌舞伎座ビル）
- 7 安居神社
- 8 一心寺三千佛堂
- 9 清寿院（関帝廟）
- 10 真田山公園前の道
- 11 真田山公園
- 12 お寺のまち・下寺町と斜面緑地
- 13 学園坂
- 14 四天王寺西門前の参道
- 15 大阪市立大江幼稚園
- 16 大阪ガス 実験集合住宅 NEXT21
- 17 U 氏邸
- 18 鶴橋駅周辺の焼肉店の多い街並み

- 19 楞嚴寺
- 20 総本家釣鐘屋
- 21 超願寺（竹本義太夫の墓）
- 22 三光神社
- 23 天王寺公園・天王寺動物園
- 24 慶沢園
- 25 茶臼山・河底池・和気橋
- 26 堀越神社
- 27 大阪市立美術館
- 28 四天王寺庚申堂
- 29 大正湯の煙突
- 30 伝藤原家隆墓
- 31 愛染堂（愛染さん）
- 32 大江神社
- 33 清水寺
- 34 吉祥寺（赤穂義士の寺）
- 35 「真田丸」ゆかりの地